

## 平成 24 年 10 月度県内産業景気動向調査結果

この調査結果は、中小企業庁の指定事業に基づいて設置された山口県内の情報連絡員 60 人に、本会が新たに選んだ 20 人を加えた 80 人の連絡員より業界動向を把握した結果です。

### 山口県の主要指標 DI 値（平成 24 年 10 月末現在）

※DI 値とは、前年同期に比べ「増加」・「好転」したとする企業割合から「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値です。

業界の景況（〈好転〉－〈悪化〉＝〈DI 値〉）

前年同月比は、好転：1.3% 悪化：56.3% DI 値：▲55.0% ポイント

売上高（〈増加〉－〈減少〉＝〈DI 値〉）

前年同月比は、増加：11.3% 減少：48.8% DI 値：▲37.5% ポイント

収益状況（〈好転〉－〈悪化〉＝〈DI 値〉）

前年同月比は、好転：1.3% 悪化：55.0% DI 値：▲53.7% ポイント

### 山口県の業種別 DI 値(業界の景況)（平成 24 年 10 月末現在）

 30 以上	 30 未満～ 10 以上	 10 未満～ ▲10 以上	 ▲10 未満～ ▲29 以上	 ▲30 以下
----------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------

食料品	織 維 工 業	木材・ 木製品	印 刷	窯業・ 土石製品	一 般 機 器	輸 送 機 器	全 製 造 業
▲50.0	▲75.0	▲33.3	▲100.0	▲83.3	▲66.7	▲50.0	▲65.6
							

卸売業	小売業	商店街	サービ ス 業	建設業	運輸業	全 非 製造業	全 体
▲40.0	▲55.6	▲75.0	▲38.5	▲20.0	▲85.7	▲47.9	▲55.0
							

## 特記事項（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）

食料品	菓子博の審査会にはマスコミの注目が集まった。	パン・菓子製造業 山口市
	世の中が不況のせいか、パン業界のどこの店も売上が少し下がっている模様。	パン・菓子製造業 山陽小野田市
	9月度は▲4.3%、週末2回の台風接近影響で雨天強風、来館者数が大きく落ちた。10月度は10/20時点で昨年同様のトレンドだが、カレンダーの関係で、土日が昨年より2日少ないため、最終トータルでは▲5%程度になる見込み。11/29・30 全国農林水産物直売所サミットが萩市で開催される。	水産食料品製造業 萩市
	先月と変わらず、資材関係の価格が上がり困っている。また食品関係原料の供給不安や価格高騰などの問題が大きくなってきている。	水産食料品製造業 下関市
繊維工業	安価な中国製品が入手できなくなっている。日中関係の緊迫化などで景気はあまりよくない。	帆布製品製造業
	受注状況は引き続き低調で厳しく、先月と状況は変わらない。中国の状況は表面的には落ち着いてきたが、人民政府が梶取りして洗脳しており、それにはまっている人は元にはなかなか戻らないだろう。ただ良識ある大勢の人は無関心。当組合の工場も今のところ問題なく操業はしている。円高が長引き、とことん国内の“ものづくり”が海外にシフトしていくのが残念でならない。個人の所得も減り、税収も悪化し国内が疲弊の一途の感じで公務員天国の感じがする。国の借金増ばかりで国の無策に怒り心頭。	下着類製造業
	国内外での販売の不活性が続いている。	外衣・シャツ製造業 山口市
	仕事はボチボチ入り、何とか操業している。11月も仕事が入っているので、資材が揃えばなんとか操業の予定。	外衣・シャツ製造業 下関市
木材・木製品	新設住宅着工戸数は、前月より引き続き微増となっているが、依然として前年を下回っている。木材価格は、変動が無い。	製材業・木製品製造業 山口市
	秋の需要が若干出ているが、依然として、厳しい状況が続いている。	製材業・木製品製造業 下関市
印刷	紙媒体の需要が有るうちに、新規マーケット開拓を模索しているが、結果も効果もなかなか現れない。	印刷 下関市

	当面は、アウトソーシング等を止め、更なる経費削減に努めるしかない。	
	10月も相変わらずの価格競争で、昨年受注の商品も、更に値を下げての入札にもかかわらず、落札できない状況が続く。	印刷 山口市
窯業・土石製品	対前年同月比は、骨材84%、路盤材97%、再生材110%、全体では89%。月毎にみれば、徐々に良くなってきているが、前年度に比べると出荷数量も激減している。	砕石製造業
	出荷量は前年同月比、前月比とも、それぞれ102%、106%と増加。これは、中部、岩国、大島地区の出荷量の前年同月比増によるもので、他の3地区は低調であり、全県的な復調には至っていない。現時点では、セメント・骨材等の資材調達は、特に問題は生じておらず、価格も安定して推移している。	生コンクリート製造業
一般機器	特段の変化はない。	一般機械器具製造業 周南市
	業界の景気は、全般的に低迷を続けている。組合員の1社より、設備操業度が若干上昇しているという報告あり。	一般機械器具製造業 防府市
	受注量が前年同月比で半減。先の業況の見通しが立たない。	一般機械器具製造業
	9月通りで推移。	宇部市
	金型の動向は、見積もり依頼数は相変わらず来ているが、なかなか受注に繋がらない。設備操業度は9月同様に上昇し年内の生産は確保出来ているが、実際は価格、納期面では非常に厳しい状況にある。特殊金型の受注、成形機とのシステム受注を主として取り込んでいるが、成形機業界も大変厳しい状態である。一般的な金型では価格、納期面で非常に厳しく、今後、年末～来年にかけての動向はまだ不透明な状況。成形製品の動向としては、自動車関係の受注が先月同様減少しており、まだまだ先行き不透明な状況が続く。	特殊産業用機械製造業
輸送機器	車両部門は当分低成長が続き、作業高も落ち込み浮上のきっかけを掴めない。精密加工部門でも投資の停滞で下降局面に入ってきた。明るさを取り戻すのは両部門とも来夏以降と見られる。	鉄道車両・同部品製造業
卸売業	好転の兆しの無いままの状況で推移してきており、柳井地区の倒産企業の発生等により、向上意欲が望めないムードが続く。	各種商品卸売業 柳井市

	各業種とも厳しい状況。現況、下期を期待するも資金繰り収益とも苦しい状況、回復は見込めず、現状推移。	各種商品卸売業 周南市
	各業種とも相変わらず厳しい状況が続いている。特に燃料価格の変動により、配送経費が経営を圧迫している。	各種商品卸売業 山口市
	大型量販店が調達する商品についても地元より県外からの納入が多く、各業種とも、対応に苦慮している。	各種商品卸売業 下関市
小売業	量販店の低価格競争が激化しており、その影響が少しずつ出ている。組合員の店は、その対抗策として取り扱い商品で差別化する方向で進めざるを得ない。又、エステティック等を導入したりする店が多くなっている。	化粧品小売業
	昨年より10月の休日が2日少ないにもかかわらず、売上は僅かではあるが増加した。好天が続いたことと、衣料品全般が良好であったことが寄与している。	各種商品小売業 山口市
	先月同様全体売上及び来店客数共に下回る厳しい状況。	各種商品小売業 長門市
商店街	空き店舗対策で、シャッターが開いた店は増加したが、苦しくなった既存店も増えた。新規出店の店も良い状況とは聞かない。結局、小さい市場を奪い合い、前よりも状況が悪くなるケースが多い。オーバーストア、オーバーフロアを調整する空き店舗対策にシフトしなければ、対処療法にならない。	山口市
	10/5～8萩焼祭りは昨年並みであった。11/10にドラッグ系スーパーが郊外大型店に隣接してオープンする。これでドラッグ系スーパーが8店舗、地元の大型スーパーが6店舗、全部で14店舗となる。商店街でイベントをいくらやっても一時凌ぎにしかならないのではないかと、時代の流れとはいえ、残念でならない。	萩市
サービス業	マスターモードの発表会を開催したところ160人程の組合員の受講があった。技術に対する追及について美容師は熱心で、今の切迫した閉塞感をなんとか脱却するために色々と勉強している。組合も一生懸命に誘導をつづけている。	美容業
	先行き明るい材料が見当たらず低調。業界の景気動向等に特に変化は期待できない。組合員を守りたいが守れない現状にある。	理容業

	<p>昨年9月に実施した後継者に関するアンケート調査で県内の自動車整備事業者の約半数で後継者が不在であることが判明した。11月から各地区において後継者による座談会を開催し、今後の様々な課題について検討することになっている。</p>	自動車整備業
	<p>エコカー減税の終わりで、小型車関係の取引が悪化。大型車関係は、夏以降下降気味。</p>	
	<p>先月と状況変わらず、どんどん厳しい状況になってきており、経営持続がきびしい状況にある。厳しい状況の中、新しいビジネスモデルの構築をしているが、直ぐに結果が出ず、苦悩している。</p>	情報サービス業 宇部市
	<p>業界的には厳しい状況。しかしながらある業界から生き残りをかけてIT投資の話等も出てきており、そのような形での需要は出てくる可能性はある。また、同業種間でのジョイントの話もあり得意分野を活かした連携も今後の展開としては有効であろう。</p>	情報サービス業 萩市
	<p>悪化の状況に諦観も散見される。</p> <p>山口市に大手回転すし店がまた一つオープンした。今年に入り3店が開店、1店が閉店した。業界としては相乗効果で好景気と見る向きもあるが、零細店に及ぼす影響は注視する必要がある。知事のいう【産業力】は業界で期待できるものかも注視したい。食の都づくりも提唱のひとつ。地産・地消を追求すれば自ずからご当地グルメが出来あがるはずだが、地産・地消で営業が継続できれば、産業力も自ずからついてくるはずである。</p> <p>懸念していたデフレ下での諸経費の値上げが、経営に重くのし掛かり、食材料・エネルギー価格等の上昇が経営を圧迫してきている。</p>	飲食業
	<p>宿泊客数は、対前年同月比73%とかなり悪い。</p>	旅館業 萩市
	<p>売上高は国体のあった前年には及ばないが、全体的に予定通りという施設が多く、飲食店・宿泊業共に好調であった。長府の旅館で廃業される施設があり、この地区では組合員が3軒となった。同業者が、年々少なくなり寂しい限りである。</p>	旅館業 下関市
建設業	<p>今月は稼働率が70%~90%近くに下がってきている。手持ちの工事が少なくなり、新たな工事も決まらない業者も出てきている。</p>	鉄骨工事業
	<p>中電への工事申請9月218件（当支部分179件）、前年同月277件（同243件）。太陽光発電への申請28件、オール電化申請26件（前年は太陽光29件、オール電化34件）。LED街路灯への切替・新設申請は52件（前年は35件）。再生エネ</p>	電気工事業

	ルギー買取の優遇見直しがあったが、太陽光発電申請は引き続いている。受注状況全体ではやや減少している。	
	公共工事の発注は本格化したが、受注した業者も受注できなかった業者も笑みが無い。採算を度外視した受注により、業界全体の体力が弱まっていく為だ。民間では解体工事がかなりの件数でてきており、その割に新築はあまり見かけないようだ。	土木工事業 柳井市
	24年10月の受注高は、対前年同月比54%。今年度の累計は、対前年比82%。	土木工事業 萩市
運輸業	輸送関係は中国・韓国の両国家的関係による輸出の減少。国内需要は中小企業需要の物流輸送に留まりつつあるも何とか前年対比で差引0。但し、油価格の値上げは中小運送業者にとっては一段と経営圧迫が強まってきた。せめて、軽油引取税の何%かを少なくしてほしいものとの声が聞かれる。油関係は3.5円の値上げ。	一般貨物自動車運送業 下松市
	中国での日本製品ボイコットの影響による日本企業の中国での減産は想像を超えるものであった。自動車関連製品の取り扱いを主とする当組合にとっては、少なからず影響も出ている。それと同時に、今後、荷主からのコストの削減転嫁が危惧される。燃料価格は落ち着きを見せ下落傾向にある。	一般貨物自動車運送業 防府市
	例年においては10月、11月は荷が良く動く時期であるが、10月の現時点では目立った輸送量の増加は見られず、依然苦しい経営状態が続いている。	一般貨物自動車運送業 宇部市
	全体的には大きく変化したとまでには行かないものの、対前年比で売上高がやや減少している組合員もある。	一般貨物自動車運送業 小野田市
	10月は油価格がガソリン1ℓ:一般SS価格145~148円と値上がり、軽油は1ℓ:120円だが、組合では大量共同購入で9月分と変わらず1ℓ:SS価格106.5円。輸送関係も上昇は見られず沈滞気味、ETCも同様で景気回復を願うのみ状態。無事故の運行に一生懸命である。	一般貨物自動車運送業 下関市

	<p>タクシーチケットの取扱い金額は、前年比マイナス10.2%（9月1日～10月20日分）となり、6月以降の大幅な減少に歯止めがかからない。9月1日～30日分は▲9.9%の減少、10月1日～20日分は▲10.6%と大幅な減少が続いている。当組合の取扱いは、光市，下松市，周南市，防府市の地域ですが、特定の地域や得意先ではなく全体的に、利用枚数が大幅に低下、加えて利用単価も減少している状況。日中の病院通い等、現金利用客の減少はそれほどではないが、夜間の飲食店関係が激減しているようす。燃料のLPGについては、CP（通告価格）と為替に連動して変動。原油価格の上昇とも関連し上昇してきた。石油・石炭税が加わった事もあり、10月のタクシー会社の購入単価は前年比+7%となり、今後の上昇が懸念されている。政府発表もようやく下方修正に転じていますが、この経済政策の効果が容易なように思われず加えて消費税増税をひかえ、国内景気の今後が大いに懸念される。</p>	<p>一般旅客自動車運送業</p>
--	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------